

“念ずれば”花ひらく！



取得した資格：技術士（建設部門：都市及び地方計画）
資格取得年度：平成30年度

ひらしょうご
比良 章 吾*

受験の動機・経緯

私は20代まで、いわゆるゼネコンに勤務し、入社1年目の冬に発生した兵庫県南部地震に伴う港湾施設や高速道路の復旧設計を皮切りに、アイランドシティ（福岡）仮護岸の最終締切設計、大規模住宅団地開発（長崎）における地滑り対策工の設計施工などに取り組みました。

その後、長崎市役所に転職してからは、斜面市街地再生、平成大合併後の都市計画マスタープラン改訂、流域分割による既成市街地における2級河川改修計画見直し、老朽既設護岸における高潮対策設計・施工、人口減少・高齢化の更なる進展を見据えた都市計画マスタープラン改訂及び立地適正化計画策定などに取り組んできました。

現在では、“動く都市計画”をモットーに20年で初めて用途地域指定基準を抜本的に見直し、長崎市の限られた平坦地における大規模な容積率緩和や、長崎スタジアムシティ実現に向けた都市計画見直し、市街化調整区域の計画的な工業団地開発を可能とする新たなルールの策定等、人口減少著しい長崎市が、住んで学んで楽しんで働きやすいまちになるよう業務に邁進しています。

私は、市民説明会や都市計画審議会などで都市計画の重要性を説明する立場にあり、信頼される技術者となるべく自己研鑽の一環として受験に至りました。

筆記試験における傾向と対策

実は5年前、河川・海岸工事を担当していたこともあり、選択科目を「河川、砂防及び海岸・海洋」で受験しようとしたのですが、異動となり、その後、あっという間に2年が過ぎ、すっかり技術士の“技”の字もなくなっていた平成30年3月、長崎県庁の先輩技術士（大学の先輩）から「立地適正化計画も作ったし、技術士受けてみたら？」とのお誘いがあり、その気になって、4月の受験申込に際し、筆記試験の準備に入りました。

したがって、私のような“思い立ったが吉日タイプ”の方へのアドバイスとなるかもしれません。

I. 必須科目（技術部門全般 ※受験時は択一式）

技術部門の広い知識を要求されますが、元来、暗記ものにアレルギー反応がある私は、日本技術士会のホームページから過去問を出力し、タイムと得点を確認しながら、問題の傾向をつかみました。

併せて、国土交通白書で最新情報を補完し、確実に合格点を得られるよう対策しました。

II. 選択科目（専門知識、応用能力）

これまで業務で活用していない技術（手法）もあることから、あらためて専門知識の体系的な整理と取得に努め、特に、選択科目の重要テーマ（人口減少下における持続可能な都市再生等）に、どのように応用するか、イメージしながら対策しました。

Ⅲ. 選択科目（問題解決能力、課題遂行能力）

まず、「現状⇒問題点⇒課題⇒解決の方向性⇒具体策」という回答作成の流れを頭に入れて、過去問を解き、時間内に論理的かつ合理的な回答が作成できるか練習を積みました。

その後、選択科目における最近のテーマは何なのかを考え、自分なりの想定問題を作成し、これについては、多様な視点から検討し、最新の技術を活用した模範解答を作る意識で取り組みました。

私の受験時は「都市のスポンジ化」がトレンドキーワードになっていたこともあり、法律改正により創設予定の新制度の内容を理解しながら準備を進めておいたことが、試験にも役立ちました。

口頭試験における傾向と対策

口頭試験は、原則20分1本勝負です。

実は、平成30年12月口頭試験の約1カ月前、私はもう一つのチャレンジをしていました。

それは、剣道五段の昇段審査です。

自他ともに認める緊張しいの私は、稽古中はそれなりに手ごたえを感じながらも、いざ審査会場に入ると、場の雰囲気飲み込まれてしまうという弱い心の持ち主です（その後、無事、五段に昇段）。

そこで、予め、実際、口頭試験を経験されている先輩技術士に、試験会場の雰囲気や試験の流れなどをヒアリングし、ある程度、試験でのやりとり（立合）をイメージして稽古できるようにしました。

①経歴及び応用能力

直面した課題に対して、どのような視点で検討し、具体的に解決に導いたかといった点や、現在であれば更に改善できる点など、技術士にふさわしい経歴であることや、継続研鑽による成長の側面がアピールできるように準備しました。

②技術者倫理・技術士制度

まずは、技術士法と技術士倫理綱領の理解から入りました。

しかしながら、字面だけでは、規定の趣旨まで理解できなかつたため、日頃の業務に当てはめて、もし技術士倫理を問われる場面に直面したら、自分ならどのように対処するかといったことをイメージし、自分の言葉で表現できるように自問自答を繰り返す中で認識を深めていきました。

受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

私のように、選択科目や専門とする事項が絞れず、受験の入り口で迷っている方も少なからずいらっしゃるのではないかと思います。

また、昨年からのコロナパンデミックの波で、リスクマネジメントの一環として、受験自体を敬遠されている方も多いと思います。

私自身、次は“総監”と思いながら、受験モードからすっかり遠ざかってしまっている状態です。

そんな時、私の故郷、鹿児島県の剣道の先生からいただいた言葉を思い出します。

- ・きつい時は、休めばよい。でもやめてはいけない。
- ・三日坊主というが、まず、三日やってみる。それができたら一週間、10日と続けてみる。そして1年の計に対し、どれだけできたか反省する。

受験者の方へのアドバイスというより、自分に対する激励になってしまいましたが、明けない夜はないという精神で、少しでも多くの方が技術士試験にチャレンジされることを期待します。

【著者紹介】 比良 章吾（ひら しょうご）

鹿児島市生まれ。平成6年 東京工業大学土木工学科卒。平成6～12年度 東亜建設工業株式会社勤務。平成13年度～現在 長崎市役所勤務。